

はじめに

千葉県立中央博物館では、平成元年のオープン以来、房総の自然と文化に関するさまざまな資料を収集保存し、その調査研究の成果を展示や講座・観察会を通して人々の生涯学習を支援する努力をおこなってきました。当館のこのような活動は、従来の博物館内での活動に加え、館に隣接する生態園や、海・山の自然のフィールドへと拡張・発展させてきました。また近年では、新たな展開として学校教育との連携を重要視し活動しています。

近年の博物館を取り巻く状況を考慮し、その使命を「地域の市民と共に、自然と歴史に関わる資料・情報を収集・蓄積するとともに、基礎的・国際的視野に立つ科学研究により、その新たな価値を発見し、教育・展示その他全ての博物館活動を通して県民や社会へ発信し、県民共有の知的資産として未来へ伝える。また、千葉県の中核的総合博物館として、さまざまな市民の幅広い知的ニーズに応えつつ、双方向の交流を通して、その生涯学習拠点となる。」とし、事業の改善に取り組んでいるところです。

文部科学省生涯学習政策局の「社会教育活性化21世紀プラン」事業として、平成16年度に引き続き実施しました『子どもとつくる博物館事業』による博学連携のための社会教育、特に環境教育推進事業」は、水に関する子どもの学習を効果的に支援するとともに、当館の社会教育機能、特に環境教育の視点から強化することを目指したものです。

平成17年度は、昨年の成果をもとに企画展「ワクワクたいけん2005 旅する地球の水」を開催し、子どもたちをはじめ、多くの皆様に好評をいただくことができました。この事業の過程で、学校との連携のあり方、博物館において子どもと大人の交流となった「水展ボランティア」の導入など、多くの貴重な経験とともに大きな成果を得ることができました。

本報告書は、この事業の平成17年度の成果をとりまとめたものです。

本事業の実施にあたっては、千葉大学教育学部教授の鶴岡義彦先生はじめ、推進委員会委員の皆様にはいろいろ御指導をいただきました。また連携協力下さった学校の先生、生徒の皆様、そして文部科学省生涯学習政策局の皆様には多大な御支援、御鞭撻をいただきました。

お世話になりました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成18年3月

千葉県立中央博物館館長
中村 哲

目次

はじめに	i
第1章 事業概要	1
第2章 博学連携	5
2-1 博学連携と児童の学び - 地域の自然の活用 -	6
コラム 自然の見方考え方を養う博物館の活用	13
2-2 京葉小学校の取り組みと児童の変容	14
コラム 「見学する博物館」から「参加する博物館」へ	17
コラム 総合的な学習と新しい姿の博物館	18
コラム 「本物を見る」博物館	18
2-3 久住第一小学校の取り組み	19
コラム 教師の感想	21
コラム 学社連携	22
2-4 「総合的な学習の時間」における博学連携の定位を探る	23
2-5 中学校選択理科「水を科学する」での学び - 中学2年生前期 14時間の実践から -	37
コラム 連携することで学びが広がる	41
2-6 子どもたちの学びの広がり と博物館	42
コラム 水展をみて	45
2-7 博学連携に向けて	46
第3章 展示評価	49
3-1 展示評価	50
3-2 ワクワクたいけん 2005 旅する地球の水	51
3-3 企画段階評価	61
3-4 制作途中評価	63
3-5 批評的評価 - 「ワクワクたいけん 2005 旅する地球の水」の展示づくりに関わって -	65
3-6 修正的評価 - 進化する展示 -	69
3-7 総括的評価	71
3-7-1 水展ボランティアによる展示検証	71
3-7-2 来館者評価	81
3-8 水展に思う	95
第4章 環境教育の推進	97
4-1 環境教育としての水展	98
4-2 水展ボランティア	100
4-3 水展ボランティアという体験	103
第5章 近年の博物館を取り巻く状況と「子どもとつくる博物館」事業	117
コラム 博物館に行ってみよう!	120
資料編	121
養老川の教材化	122
第1回社会活性化推進委員会議事録	128
第2回社会活性化推進委員会議事録	134
社会教育活性化推進委員会委員一覧	144